

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・イラン等で下方修正も、豪州、ロシア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

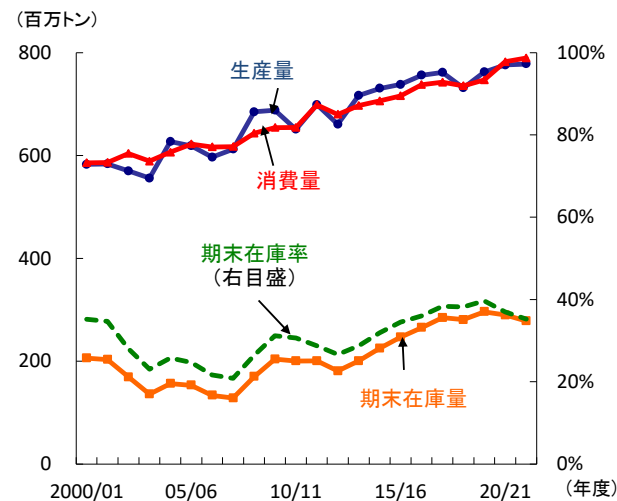
消費量 前年度比 前月比

- ・中国等で下方修正も、ロシア、豪州、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国等で下方修正も、豪州、EU、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2021. 12. 9)をもとに農林水産省で作成

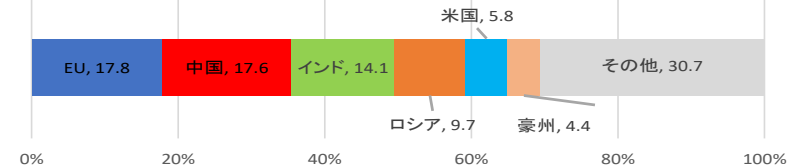
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

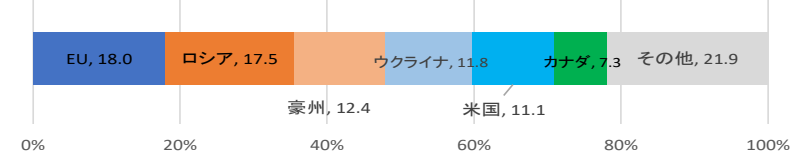
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.2	775.9	777.9	2.6	0.3
消 費 量	746.9	782.3	789.4	1.9	0.9
うち飼料用	139.2	157.7	160.6	2.0	1.8
輸 出 量	194.4	201.8	205.5	2.3	1.8
輸 入 量	188.2	194.2	203.0	1.9	4.5
期末在庫量	296.0	289.6	278.2	2.4	▲ 4.0
期末在庫率	39.6%	37.0%	35.2%	0.2	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 December 2021)

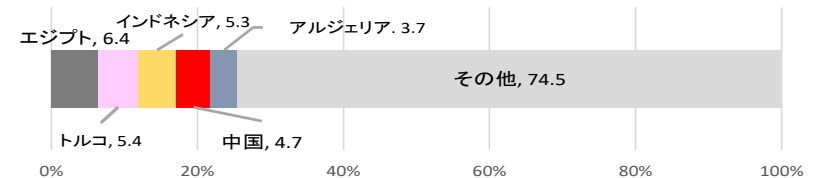
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量 (777.9百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量 (205.5百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量 (203.0百万トン)



（２）国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 10月の月間輸出量はここ30年で最低水準

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8百万トンの見込み。そのうち、冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量は、それぞれ34.8百万トン(対前年度比9.0%増)、9.0百万トン(同43.6%減)、1.0百万トン(同46.1%減)である。

同「Crop Progress」(2021.11.22、29)によれば、11月22日時点で2022/21年度の冬小麦の播種は主要18州でほぼ終了したが、降雨により大豆の収穫が遅れたために播種が遅延したSRW(ソフト・レッド・ウインター)産地の米国東部の一部では、他の作物を作付する可能性がある。また、11月28日時点の2022/23年度の冬小麦の発芽進捗率は、92%と5年平均(91%)を上回り、前年度(92%)並となった。作柄評価は、良からやや良の割合が44%と前年度(46%)を下回っている。12月7日現在、冬小麦生産地のおおよそ53%が干ばつ状況下にあり、ワシントン州はほぼ全域が干ばつ状態となっている。一方、プレーンズ中央部のカンザス州は22%。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月予測から0.6百万トン下方修正され、前年度に比べ15.3%減少の22.9百万トンの見込み。品種別には、HRS(ハード・レッド・スプリング)は輸出ペースが遅く、前月に比べ0.3百万トン下方修正の5.6百万トン。背景には、米国プレーンズ北部の干ばつにより生産量が減少したため、高タンパク質小麦の価格高騰がある。また、比較的良好な生産量となったHRW(ハード・レッド・ウインター)は、堅調な国内需要等から価格が高水準であるため、前月に比べ0.3百万トン下方修正の9.5百万トンの見込み。

同「Wheat outlook」(2021.12.13)によれば、供給量の逼迫と価格水準の高さから、10月の輸出量は9月のおおよそ半分と、ここ30年で最低の月間輸出量に落ち込んだ。

米国の輸出は、主要な市場であるラテンアメリカやアジアでは例年並みの輸出量が維持される見込みであるが、アフリカや中東市場の大部分では輸出競争力が低下すると見られる。

11月の輸出先国は、フィリピン(18.3%)、メキシコ(18.1%)、ナイジェリア(10.6%)の順で、中国向けは0.1%であった。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測より0.4百万トン上方修正され16.3百万トンとなるものの、2014/15年度以降最小の見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位：百万トン)

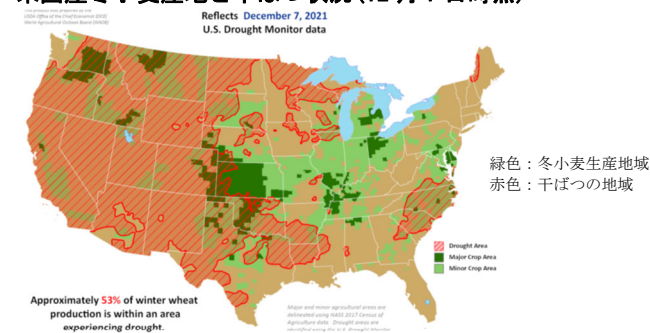
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.7	-	3.9
うち飼料用	2.6	2.6	3.7	-	41.7
輸 出 量	26.4	27.0	22.9	▲ 0.6	▲ 15.3
輸 入 量	2.8	2.7	3.0	▲ 0.1	9.5
期末在庫量	28.0	23.0	16.3	0.4	▲ 29.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	29.9%	1.0	▲ 10.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	-	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	-	▲ 10.8

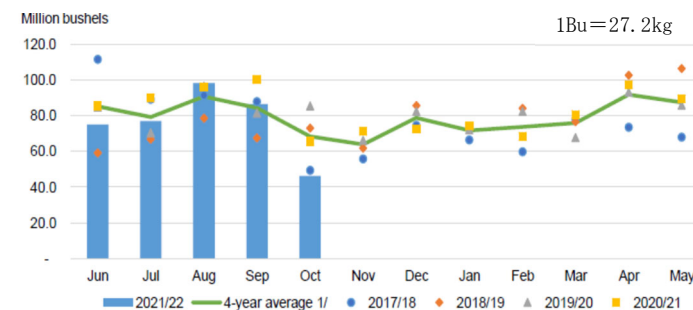
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図 米国産冬小麦産地と干ばつ状況(12月7日時点)



資料：USDA「U.S.Agriculture in Drought」(2021.12.7)

図 米国の月別の小麦輸出量(2017/18 から 2021/22)



資料：USDA「Wheat outlook」(2021.12.9)

＜ カナダ ＞ **USDAの生産量予測は前月から上方修正され21.7百万トン**

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測から0.7百万トン上方修正され21.7百万トンとなるものの、前年度に比べ38.5%減少し、2007/08年度以降最低水準。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2021」(2021.12.3)によれば、カナダ西部では今春の播種時期に好天に恵まれたものの、生育期間を通じてかなり厳しい高温・乾燥天候となり、記録的な単収減となった。2021/22年度の実産量は、平原三州の実産量減少が大きく影響し、前年度を38.5%下回る21.7百万トンの見込み。平原三州のサスカチュワン州、アルバータ州、マニトバ州の実産量は、それぞれ8.3百万トン(前年度対比48.1%減)、6.3百万トン(同42.9%減)、3.8百万トン(同21.9%減)と前年度を下回る見込み。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.12.17)によれば、生産量21.7百万トンのうち、前月に比べ、デュラム小麦は下方修正され2.7百万、普通小麦は上方修正され19.0百万トン。カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)のサンプル調査の結果、デュラム小麦の調査対象の70%が1等から2等に格付けされ、平均タンパク質含有量は15.7%(前年13.9%)である。また、普通小麦も90%近くが1等から2等に格付けされ、平均タンパク質含有量は14.7%(同13.3%)である。

一方、2022/23年度の冬小麦の播種が開始されており、播種面積は2021/22年度を6.6%下回る0.5百万ヘクタール。農産物市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2021.12.4)によれば、2022/23年度の冬小麦の69%を生産するオンタリオ州では良好な生育条件に恵まれている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく15.0百万トンの見込みで、2005/06年度以降最低となる見込み。CGCによれば、10月の実輸出量は普通小麦が0.9百万トン、デュラム小麦は0.2百万トンの計1.1百万トン。

現地情報によると、カナダ西部ブリティッシュコロンビア州の11月13日から2日間の集中豪雨で生じた洪水や土砂崩れによる物流の状況は、鉄道大手2社のカナディアン・パシフィック・レールウェイ(CP)、カナディアン・ナショナル・レールウェイ(CN)は運行を開始しているが、天候の不安定さに加え、道路の不通区間からの振り替え輸送等もあり、混乱しているとみられる。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	21.7 (21.7)	0.7	▲ 38.5
消 費 量	9.3	9.1	7.9 (7.9)	-	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (3.8)	-	▲ 33.0
輸 出 量	24.6	26.4	15.0 (16.3)	-	▲ 43.2
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.3)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	5.1 (3.5)	0.7	▲ 9.7
期末在庫率	16.2%	16.0%	22.4% (14.2%)	2.8	6.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25 (9.25)	0.75	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34 (2.34)	▲ 0.13	▲ 33.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(17 December 2021)

図 カナダ産小麦の生産量の推移(デュラム小麦、春小麦、冬小麦)

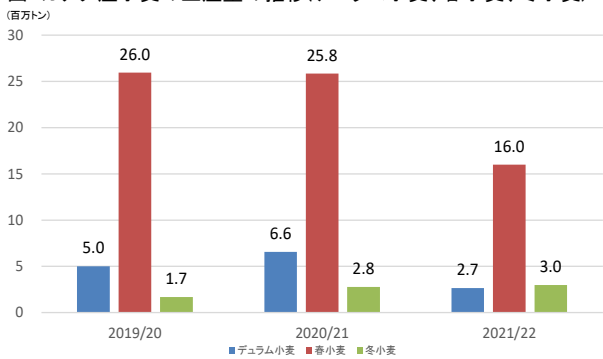


表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2021年10月)

＜普通小麦＞			＜デュラム小麦＞		
国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
ナイジェリア	8.8	10.2	ナイジェリア	5.5	19.2
エクアドル	8.6	10.1	モロッコ	5.0	17.6
ペルー	8.3	9.6	米国	4.0	14.2
日本	8.1	9.4	日本	4.0	14.1
メキシコ	6.0	7.0	イタリア	3.3	11.6
その他	46.1	53.7	その他	6.7	23.4
	85.9	100.0	計	28.5	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2 普通小麦の品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter
No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum Other
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 > 2021/22 年度の生産量は 34.0 百万トンと史上最高の豊作見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実生産量は、単収の上昇により前月予測から 2.5 百万トン上方修正され史上最高の 34.0 百万トンとなり、豪州は 2 年続けての豊作の見込み。単収は 2.60 トン/ヘクタールと史上最高である 2012/17 年度の 2.61 トン/ヘクタールにほぼ並んでいる。また、収穫面積は、高水準の小麦国際価格と大部分の生産地で生育に良好な状況となったことから、前年度より 1.6%増加の 13.10 百万ヘクタールとなった。

豪州農業資源経済科学局 (ABARES)「Australian Crop Report」(2021.11.30)によれば、2021/22 年度の実生産量は、2 年連続して過去最高を更新し、34.4 百万トンの見込み。

主要生産州別の生産量は、ニューサウスウェールズ (NSW) 州では、生産量は前年度より 7 % 減少するものの、5 年平均の約 2 倍の 12.2 百万トンとなり、2 年連続の豊作の見込み。同州では、栽培期間中の生育条件は良好で、ほぼ全ての生産地域で降水量は平均以上となった。しかし、11 月に大雨が降り続き、収穫を遅らせ、収穫時の品質を低下させた。また、この降雨で、同州北部及び中央部で洪水が発生したが、被害は限定的で、現時点では州全体の生産量へ大きな影響はないと見られている。今後、ラニーニャ現象による降雨過多により、品質の低下や収穫の遅延、洪水による収穫量の減少の可能性がある。西オーストラリア(WA)州は、前年度より 23%増加の 11.7 百万トンと史上最高の見込み。同州では、9 月の平年を下回る降水量と一部地域での霜害により生産見通しが影響を受けたものの、10 月の適時な降雨により改善した。GIWA(西豪州穀物産業団体)によれば、11 月に収穫が進み、生産量は前月予測より 0.1 百万トン上方修正され 11.9 百万トンと前年度(9.2 百万トン)を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、2 年続きの豊作から、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され史上最高の 25.5 百万トン。

豪州統計局によれば、10 月の輸出先国は、ベトナム(20%)、中国(17%)、インドネシア(13%)の順で、輸出先国の上位はアジア向けとなっている。なお、カナダ、米国の生産量の減少に伴う豪州産穀物への需要集中で港湾能力が追いつかない状況が続いており、輸出コストの上昇にも注視が必要である。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.3	34.0 (32.0)	2.5	2.1
消費量	8.0	8.0	8.5 (8.7)	0.5	6.3
うち飼料用	4.5	4.5	5.0 (5.0)	0.5	11.1
輸 出 量	9.1	23.9	25.5 (23.5)	2.0	6.9
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	4.3	4.5 (4.4)	1.0	4.6
期末在庫率	15.6%	13.6%	13.3% (13.6%)	2.0	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	9.86	12.90	13.10 (13.0)	-	1.6
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.60 (2.47)	0.20	0.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

図 直近7年間の小麦生産主要州の小麦生産量の推移

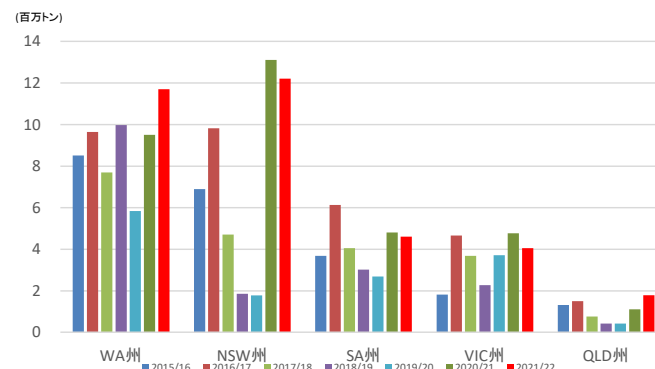
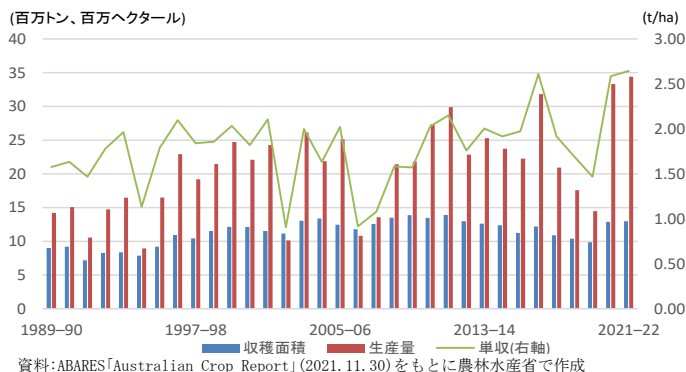


図 豪州産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移



< EU > 2022/23 年度の冬小麦はバルカン半島南部等の一部を除き越冬期

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.11.25)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、139.0 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べ 0.1 百万トン上方修正され、131.5 百万トンとなり、前年度を 10.2%上回る見込み。国別には、スペインで下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.1 百万トン上方修正され 7.5 百万トンとなり、前年度を 0.1%上回る見込み。国別には、ギリシャ等で下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。

また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「First estimates of 2021 UK wheat and barley production」(2021. 10.11)によれば、英国の 2021/22 年度の前年度生産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 153.0 百万トンとなる見込み。

欧州では、11 月中旬に全土で乾燥天候となったものの、下旬の降雨で生育に十分な土壌水分量となった。12 月上旬に、バルカン半島南部、イタリア、スペインを除き、小麦は越冬期を迎えた。

「France Agri Mer」(2021.12.3)によれば、11 月 29 日現在、フランスの 2022/23 年度の播種進捗率は、冬小麦が 99 % (前週 97%、前年度同時期 99%)、デュラム小麦が 88%(同 79%、90%)。また、小麦全体の 92%がすでに発芽し、14%が分けつ期を迎えている。生育状況は、普通小麦がやや良から良が 99%(前週 99%、前年度同時期 96%)、デュラム小麦が 88%(同 79%、同 90%)であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば 2021/22 年度の EU の飼料用の消費量は前月に比べ 0.6 百万トン上方修正され 53.1 百万トンの見込み。収穫時の長雨により品質が低下し、飼料用グレードが増加し、飼料大麦の一部を代替した。一方、とうもろこしに比べ価格が高い小麦は、バイオ燃料等の産業用消費は下方修正された。2021/22 年度の輸出量は、豊作と価格競争力の高さから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、37.7 百万トン。しかし、アルジェリアは製粉用小麦の大半をフランスから輸出していたが、フランス産小麦の品質悪化により、ドイツ等から輸入すると見られる。

EU 委員会によれば、9 月の輸出量は、普通小麦が 4.0 百万トン、デュラム小麦が 0.2 百万トン。輸出先国は、普通小麦がアルジェリア(18.8%)、エジプト(15.7%)、デュラム小麦がチュニジア(18.8%)、モーリタニア(15.8%)の順。普通小麦、デュラム小麦とも 8、9 月は前年を上回った。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.4	136.6	153.0 (152.0)	0.3	12.0
消費量	122.5	118.2	123.2 (121.0)	0.4	4.2
うち飼料用	53.2	48.5	53.1 (48.8)	0.6	9.6
輸出量	41.4	30.2	37.7 (35.3)	0.5	24.9
輸入量	7.3	8.6	7.2 (7.2)	▲ 0.1	▲ 16.3
期末在庫量	15.6	12.4	11.7 (14.0)	0.2	▲ 5.7
期末在庫率	9.5%	8.3%	7.2% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	24.36	25.89 (25.49)	0.09	6.3
単収(t/ha)	5.90	5.61	5.91 (5.96)	0.01	5.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)
表内及び () 内のデータは EU27 ヶ国+英国のデータ

図 EUの普通小麦の輸出量の推移

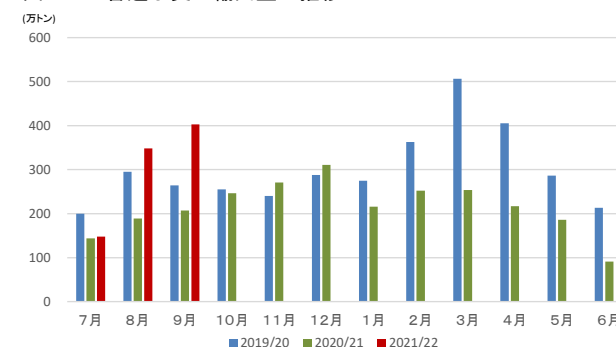
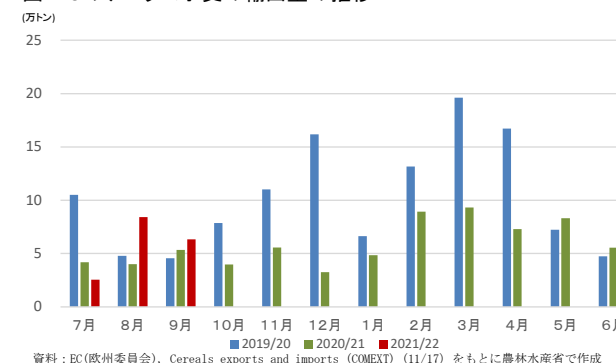


図 EUのデュラム小麦の輸出量の推移



資料: EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (11/17) をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】、中国国家統計局「2021 年糧食生産量データ」（2021.12.6）によれば、2021/22 年度の生産量は、137.0 百万トンと史上最高の見込み。

国家糧油情報センター(2021.12.6)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、全国的には三葉期から分げつ期、一部地域では越冬期を迎えている。なお、華東地域の山東省、安徽省等、華北地域の山西省、西北地域の陝西省、青海省では、9 月以降の降雨過多による播種の遅れで、生育が例年より 7 日から 25 日遅れた。このため、分げつ期に達した割合は前年同時期を下回っている。分げつの遅れは、生育に影響が及び、結果として個体が小さく弱くなる可能性があるものの、今後の天候による回復の余地は大きいと見られている。一方、西南地域の四川省等、華中地域の湖北省等の生育状況は例年並みである。

中国中央气象台(2021.12.3)によれば、生育状況は、中国全土の冬小麦の 24%が一類苗(※)、75%が二類苗に格付けされている。前月同期に比べると、一類苗は 3 ポイント上昇し、二類苗は 3 ポイント低下した。なお、前年同時期は、一類苗は 21%、二類苗は 79%であった。
(※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱っている苗)

【貿易情報・その他】国家糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 8.0 百万トンで、前年度に比べ 23.0%減少する見込み。USDA によれば、2021/22 年度の輸入量は、輸入ペースの鈍化から前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、9.5 百万トン。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 10 月の小麦輸入量は、前年同時期(6.5 百万トン)を 24.2%上回る 8.0 百万トンとなったが、同期間の輸入量は 7 月から減少傾向となっている。また、輸入先国は、米国(32.1%)、カナダ(31.3%)、豪州(24.2%)の順で、この 3 カ国で全体の 87.6%を占めているが、米国は横ばい、カナダ、豪州は低下傾向となっている。

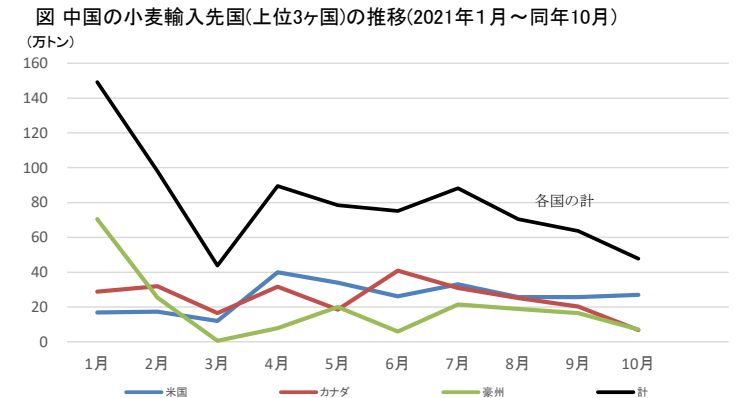
中国農産品供需形勢分析月報(10 月)によれば、10 月の国内小麦価格は、小麦の市場流通量の減少や長期にわたる降雨等で秋の収穫や播種が遅れたこと等から、一時的に小麦の供給が逼迫し小麦価格は上昇した。しかし、今年度の小麦は豊作で在庫が充分なことや、小麦価格が高いことで加工業者は仕入れを制限していることから、今後の価格上昇の余地は限られると見られる。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	137.0 (137.1)	0.1	2.0
消 費 量	126.0	150.0	148.5 (146.5)	▲ 0.5	▲ 1.0
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (33.4)	-	▲ 10.0
輸 出 量	1.1	0.8	0.9 (1.3)	▲ 0.1	18.4
輸 入 量	5.4	10.6	9.5 (10.6)	▲ 0.5	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	141.2 (128.3)	0.2	▲ 2.0
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.5% (86.8%)	0.5	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57 (23.8)	▲ 0.23	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81 (5.76)	0.06	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)



2021年10月			2021年1月～2021年10月			2020年1月～2020年10月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
米国	26.9	56.2	米国	257.9	32.1	カナダ	189.7	29.3
豪州	7.1	14.9	カナダ	251.4	31.3	フランス	178.8	27.6
カナダ	6.7	14.0	豪州	194.6	24.2	米国	114.2	17.6
フランス	5.9	12.4	フランス	71.3	8.9	豪州	108.2	16.7
カザフスタン	1.2	2.4	カザフスタン	18.0	2.2	リトアニア	33.3	5.1
その他	0.0	0.0	その他	6.6	0.8	その他	23.4	3.6
計	47.8	100.0	計	804.5	100	計	647.5	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は前月に比べ1.0百万トン上方修正。品質は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(USDAはクリミア分を含まない)は、前月予測から1.0百万トン上方修正され75.5百万トンとなるが前年度に比べ11.5%減の見込み。

パトロシェフ農相は12月14日、2021/22年度の実産量は約76.0百万トン(重量調整後)となるとの見方を示した。ロシア農業省の速報値によれば、12月14日現在、小麦の収穫面積は27.8百万ヘクタール(収穫進捗率は96.8%)、収穫量(重量調整前)は79.1百万トンである。

国営ロシア農業センターによれば、12月1日までに収穫された小麦の87%(3等46.1%、4等41%)が食用の等級に格付けられた(1等から4等は食用、5等は主に飼料用)。この比率は前年同日の71%を大きく上回り過去最高の高水準となった。今年度は品質が高いのが特徴である。

一方、ロシア農業省の速報値によれば、2022/23年度の冬小麦の播種面積は、12月10日時点で18.4百万ヘクタール。ロシア気象センターによれば、生育段階は出芽期から分けつ期を迎えているが、ロシア・ヨーロッパ部では11月下旬に南部の一部を除き気温の低下で越冬期に入った。

ロシア連邦水文気象科学センターによれば、11月25日時点の冬穀物の作付面積(18.4百万ヘクタール)のうち、76%が良好から非常に良好、21%が並、不良は3%となった。地域別には、中央連邦管区で良好から非常に良好の割合が前年度の47%から82%に大きく上昇した。また、ロシア全土では、不良の面積の割合は直近5年間の平均(8.4%)を大幅に下回った。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、36.0百万トン。ロシア産は、フランス産のシェアが大きかったアルジェリアで、ウクライナ産とともに輸出量を伸ばす見込み。アルジェリアは、本年6月に数年ぶりにロシア産の輸入を再開したが、ロシア市場関係者は、同国は1.0百万トン以上のロシア産を輸入するとみている。10月の輸出先国は、非公表(34.1%)、エジプト(13.0%)、トルコ(5.5%)の順。減産となったイラン、トルコでロシアからの輸入が増加している。ロシア農業省の速報値によれば、輸出関税の導入により輸出ペースが鈍化し、輸出量は、11月は2.8百万トンで前年同月の4.4百万トンを大きく下回った。市場関係者は輸出量を33.0百万トンと予測している。なお、ロシア経済発展省は12月17日、来年の上半期に導入予定の小麦の輸出枠(800万トン)を公表した。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	73.6	85.4	75.5 (75.0)	1.0	▲ 11.5
消 費 量	40.0	42.5	41.8 (41.7)	0.8	▲ 1.8
うち飼料用	17.0	19.0	18.5 (17.3)	0.5	▲ 2.6
輸 出 量	34.5	38.5	36.0 (34.1)	-	▲ 6.5
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.2)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.2 (12.2)	0.3	▲ 14.6
期末在庫率	9.7%	14.8%	13.2% (16.1%)	0.2	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.60 (28.0)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.74 (2.68)	0.04	▲ 8.1
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(9 December 2021)、 IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)					

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移(6月2日から12月15日)

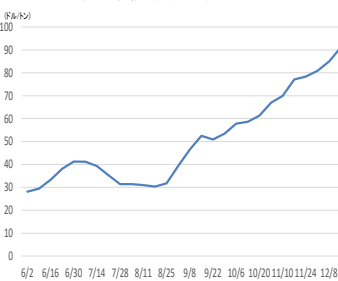
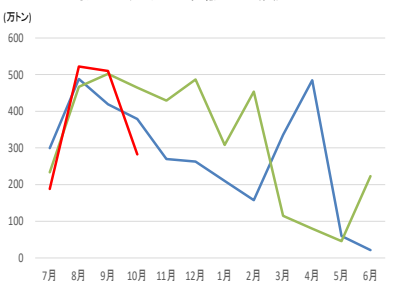


図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出量の推移



資料: ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年10月、2021年7月～2021年10月、2020年7月～2020年10月)

2021年10月			2021年7月～2021年10月			2020年7月～2020年10月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
非公表	96.2	34.1	非公表	382.7	25.5	エジプト	331.1	20.0
エジプト	36.6	13.0	トルコ	303.1	20.2	トルコ	305.6	18.4
トルコ	24.1	8.5	エジプト	186.5	12.4	バングラデシュ	108.7	6.6
サウジアラビア	18.0	6.4	ナイジェリア	67.8	4.5	アゼルバイジャン	72.4	4.4
アゼルバイジャン	16.0	5.7	アゼルバイジャン	53.7	3.6	ナイジェリア	66.2	4.0
その他	91.5	32.4	その他	508.7	33.9	その他	774.3	46.7
計	282.3	100.0	計	1,502.5	100.0	計	1,658.4	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国等で下方修正も、EU、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

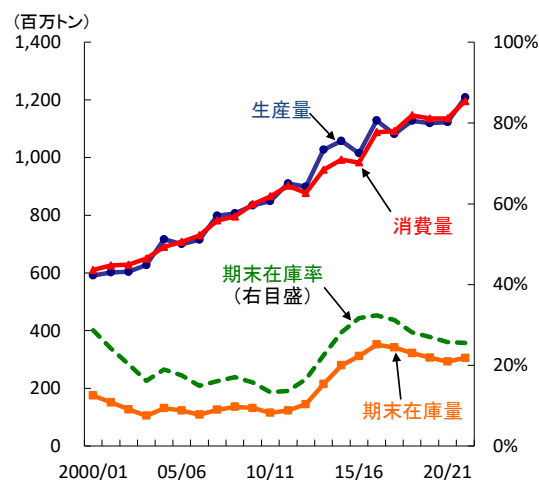
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU、イラン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)をもとに農林水産省にて作成

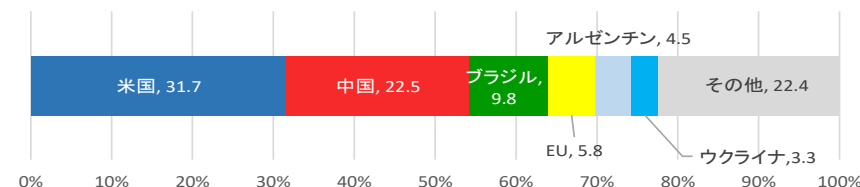
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

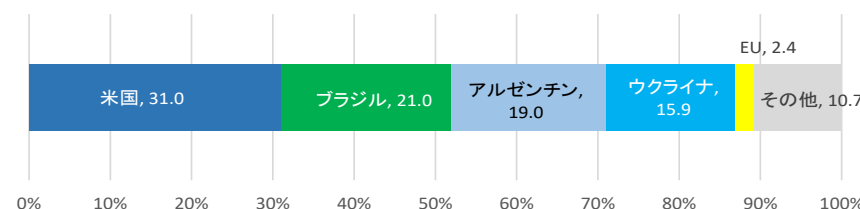
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,119.7	1,122.8	1,208.7	4.1	7.7
消 費 量	1,135.8	1,136.4	1,195.9	3.8	5.2
うち飼料用	715.8	724.6	750.8	3.5	3.6
輸 出 量	172.3	177.5	204.9	1.4	15.4
輸 入 量	167.8	186.5	185.5	2.0	▲ 0.6
期末在庫量	306.3	292.7	305.5	1.1	4.4
期末在庫率	27.0%	25.8%	25.5%	0.0	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 December 2021)

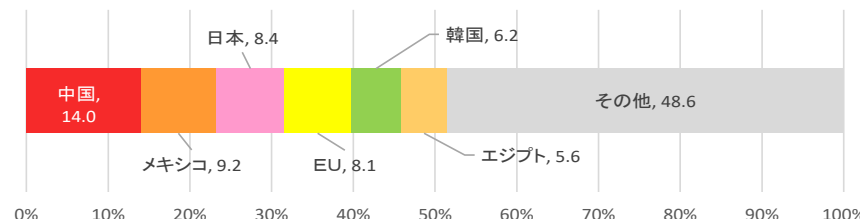
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,208.7百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(204.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.5百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 収穫面積増、単収増で生産量史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測から変更はなく、全米平均単収が史上最高の11.11トン/ヘクタールとなったことから、前年度より6.7%増の382.6百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。11月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から変更はなく、前年度より2.2%増の313.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.2%減の63.5百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～12月2日)は、60.5百万トンであり、内訳は中国(17.5百万トン)、メキシコ(14.5百万トン)、日本(10.4百万トン)、コロンビア(3.6百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度より20.8%増の37.9百万トンの見込み。なお、期末在庫率は10.1%で依然として低水準の見込み。

写真：中西部イリノイ州のとうもろこし風景

(11月10日撮影)

とうもろこしをトラックから生産者の倉庫に移動。



とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

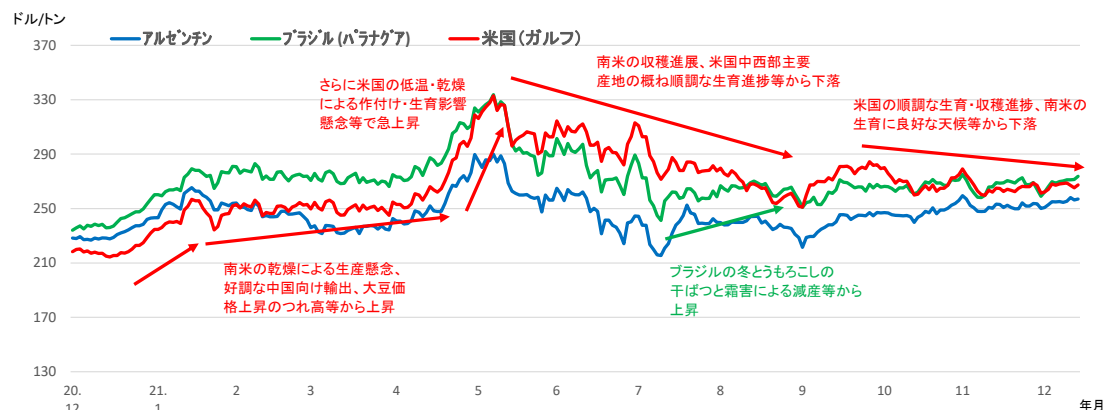
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	346.0	358.5	382.6	-	6.7
消 費 量	309.6	306.5	313.2	-	2.2
うち飼料用	149.9	142.3	143.5	-	0.9
エタノール用等	123.4	127.7	133.4	-	4.4
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	-	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	37.9	-	20.8
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.1%	-	1.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.43	-	3.4
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より35.6%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2021.12.9）によれば、生育期を迎えた2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積及び単収の増加により、前年度比17.6%増の29.1百万トンの見込み。一方、大豆収穫後、2022年に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.4%増の88.1百万トンが見込まれ、合計では前年度比34.6%増の117.2百万トンで史上最高の見込み。（P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。

12月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足により作柄への影響が懸念されている。夏とうもろこしは、南部のパラナ州で生殖生長から充実段階が12月6日現在61%、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で作付進捗率は12月9日現在90%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より1.4%増の73.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より2.3倍の43.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、11月までの貿易実績に基づき前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、18.5百万トンと2015/16年度以降最小の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年11月の輸出量は2.4百万トンで、前年同月（4.7百万トン）に比べ、49.6%減。2021年1～11月の輸出量は17.0百万トンで、前年同期（29.6百万トン）と比べ42.5%減となっている。内訳は、1位がイラン2.7百万トン、2位がエジプト2.3百万トン、3位がスペイン1.8百万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

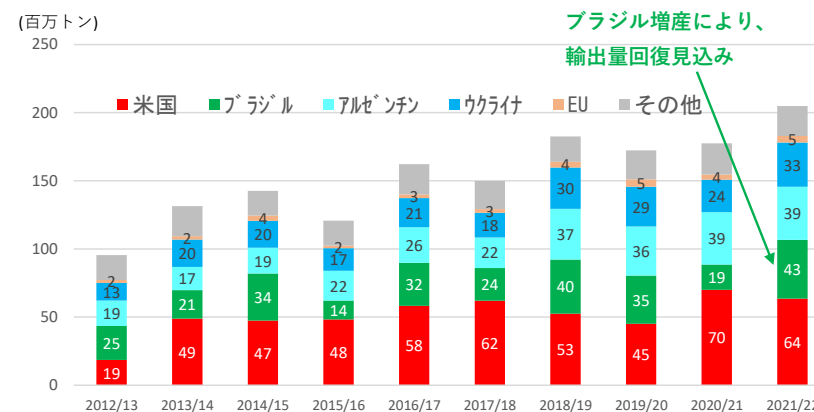
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	118.0	(117.4)	-	35.6
消 費 量	68.5	72.0	73.0	(76.5)	-	1.4
うち飼料用	58.5	61.0	62.0	(56.0)	-	1.6
輸 出 量	35.2	18.5	43.0	(40.0)	-	132.4
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9	(7.6)	-	70.7
期末在庫率	5.0%	5.8%	7.7%	(6.5%)	-	1.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	20.80	(20.60)	-	4.5
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.67	(5.70)	-	29.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 7.9%増の 54.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.12.16）によれば、最近の降雨が作付けを遅らせたものの、北部の土壌水分は改善した。作付進捗率は 48%で、過去 5 年平均より 13 ポイント遅れている。なお、ラニーニャ現象の発生に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.6%増の 14.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 1.3%増の 39.0 百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～10 月の輸出量は 35.3 百万トンで、前年同期（34.5 百万トン）より 2.2%増。内訳は、1 位がベトナム 5.8 百万トン、2 位が韓国 4.1 百万トン、3 位がエジプト 3.1 百万トン。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、数量管理（輸出枠）を導入することを表明。同省プレスによると、輸出向けは、とうもろこし 4,160 万トン、小麦 1,250 万トンで国内需給に影響しない数量としている。

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景
（12 月 1 日撮影）
8 月下旬に作付け。生育は極めて良好。
収穫は 2022 年 3 月中旬の予定。



とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	51.0	50.5	54.5	(63.3)	-	7.9
消 費 量	13.5	14.0	14.5	(22.6)	-	3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5	(17.6)	-	5.0
輸 出 量	36.3	38.5	39.0	(37.0)	-	1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.6	2.6	(9.0)	-	62.3
期末在庫率	7.3%	3.1%	4.9%	(15.1%)	-	1.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.80	(8.30)	-	6.3
単収(t/ha)	8.10	7.89	8.01	(7.63)	-	1.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

< 中国 > 生産量下方修正も史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国国家统计局「2021 年糧食生産量データ」(2021.12.6)によれば、2021 年の生産量は前年度より 4.6%増の 272.6 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の実生産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が上方修正される一方、単収が下方修正されたことから前月予測から 0.4 百万トン下方修正されたものの、前年度より 4.6%増の 272.6 百万トンと史上最高の見込み。

11 月上旬時点で、東北地区の春とうもろこし、河南省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より 3.2%増の 294.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 11.9%減の 26.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の輸入量は、29.5 百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021 年 1～10 月の輸入量は 26.2 百万トンで、前年同期の 3.4 倍となり、前年の年間輸入量の 2.3 倍。内訳は、米国産 18.9 百万トン (72%)、ウクライナ産 7.3 百万トン (28%) で、前年同期はウクライナ産が 64%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、10 月の国内流通価格は、新穀とうもろこしは豊作見込みで、続々と市場に出回り始め、かつ旧穀とうもろこしの投げ売り、在庫処分等も重なり、国内とうもろこし市場への供給は十分な上、電力制限により一部加工業者の稼働率が低下し、2,740 元/トンと前月 (2,780 元/トン) から下落したものの、依然として、前年より高水準で推移した。一方、10 月の外国産価格は 2,600 元/トンと前月 (2,500 元/トン) から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

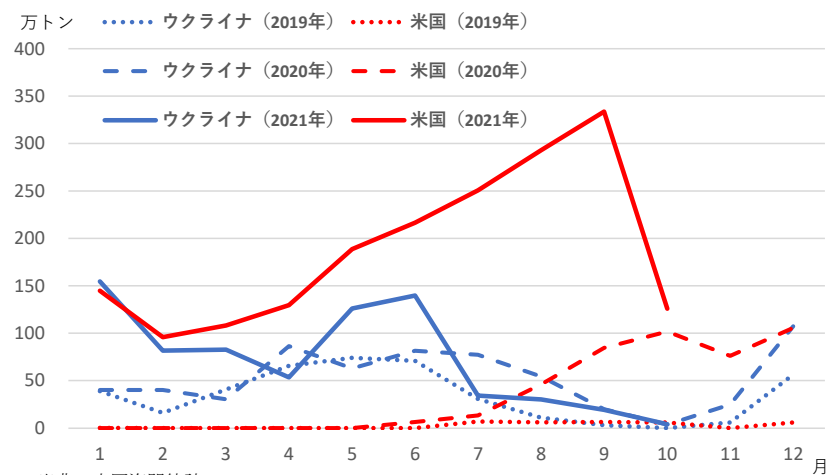
とうもろこしー中国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	260.8	260.7	272.6	(272.8)	▲ 0.4	4.6
消 費 量	278.0	285.0	294.0	(295.2)	-	3.2
うち飼料用	193.0	203.0	214.0	(192.0)	-	5.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	29.5	26.0	(16.5)	-	▲ 11.9
期末在庫量	200.5	205.7	210.2	(188.4)	▲ 0.4	2.2
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.5%	(63.8%)	▲ 0.1	▲ 0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32	(42.90)	1.32	5.0
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29	(6.36)	▲ 0.21	▲ 0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・タイ等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

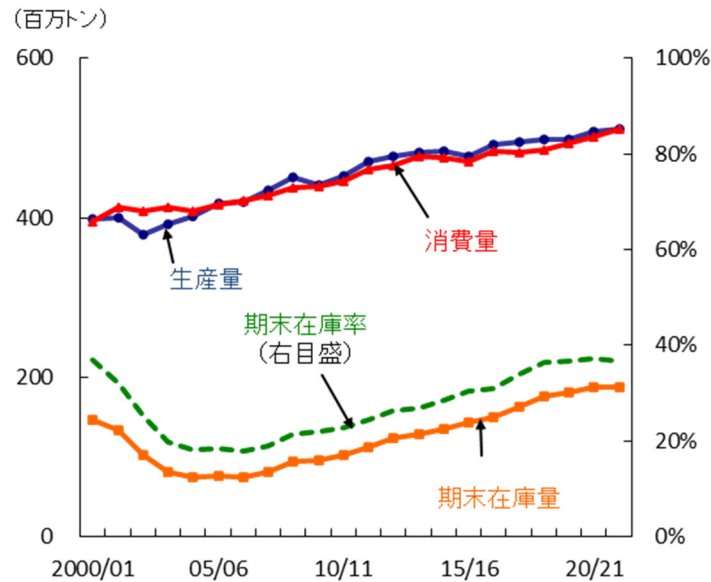
消費量 前年度比  前月比 

・ミャンマー等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ミャンマー等で上方修正されたことから前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.12.9）をもとに農林水産省にて作成

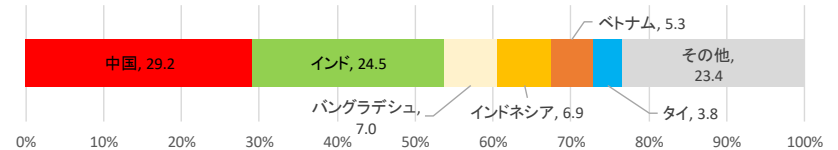
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

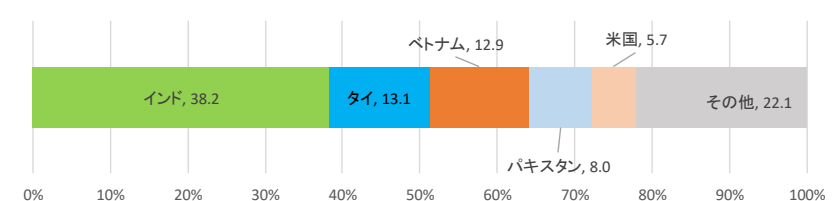
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.8	507.2	510.8	▲ 0.9	0.7
消費量	493.7	502.0	510.9	▲ 0.4	1.8
輸出量	43.4	49.8	49.7	0.1	▲ 0.2
輸入量	42.3	46.4	47.8	0.5	3.0
期末在庫量	181.8	186.9	186.8	▲ 1.1	▲ 0.1
期末在庫率	36.8%	37.2%	36.6%	▲ 0.2	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 December 2021）

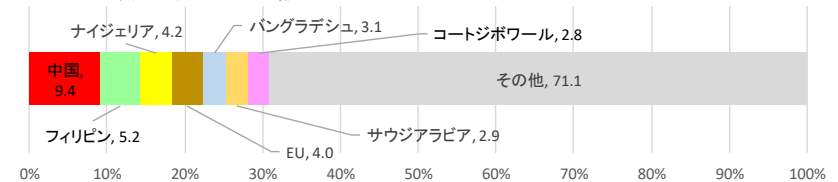
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(510.8百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.7百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(47.8百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 輸出力・輸入量ともに下方修正されるも価格は高値で推移

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比14.9%減の6.2百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約25%を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.5%減の4.7百万トンの見込み。2021/22年度の輸出量は、11月までの予測と比較して、11月時点の米国輸出成約高が予想より伸びなかったことから、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比5.0%減の2.8百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は、歴史的な高値の海上運賃や世界的なコンテナ不足、その他供給網の混乱により、想定よりも遅いペースで輸入が行われていることにより、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比1.9%減の1.1百万トンの見込み。背景には、米国西海岸の荷役の遅れなど運送の混乱がある。

同「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、12月7日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、9月上旬から横ばいで、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。12月7日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、7月20日までの週以降横ばいの600ドル/トンと高値で推移している(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約25%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.9	7.2	6.2	-	▲ 14.9
消 費 量	4.6	4.9	4.7	-	▲ 3.5
輸 出 量	3.0	3.0	2.8	▲ 0.0	▲ 5.0
輸 入 量	1.2	1.1	1.1	▲ 0.1	▲ 1.9
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.0	▲ 20.9
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.6%	▲ 0.1	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.70	-	1.9

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

写真: アーカンソー州でのコメの収穫風景



USDAは、米国最多コメ収穫州のアーカンソー州(主に長粒種を栽培)の2021年平均単収を8.36トン/ヘクタールと予想。この値を維持出来れば同州の史上最高単収となる。
(11月10日撮影)

< インド > 2020/21 年度の輸出量が 20.2 百万トンに上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.2%増の 125.0 百万トンで史上最高の見込み。同 USDA「World Agricultural Production」(2021.12.9)によれば、カリフ作の収穫が例年より遅れたためラビ作の作付開始が遅れた。

インド農業農民福祉省「All India Crop Situation」(2021.12.3)によれば、ラビ作は例年 425 万ヘクタールほど作付されており、12 月 3 日時点のラビ作の作付済み面積は、前年同期比より 3.8%進んで 97.4 万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.5%増の 103.5 百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 5.8%減の 19.0 百万トンの見込みで史上 2 番目の高水準。2020/21 年度の輸出量は、2021 年 1 月から 10 月に 17.8 百万トンと想定を超える船積みが行われたことに基づき、0.2 百万トン上方修正され、20.2 百万トンとなり史上最高の見込み。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 6.9%増の 38.5 百万トンで史上最高の見込み。なお、インドの期末在庫量は世界の約 2 割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021 年 4 月～10 月の累積輸出量は 1,179.3 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ (147.5 万トン)、中国 (74.4 万トン)、ベナン (72.0 万トン) になっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、インド産米(碎米 5%混入)の 12 月 7 日までの週の価格は 11 月 7 日までの週より 10 ドル下落して 340 ドル/トンとなり、パキスタンの同時期の同等クラスの輸出価格 350 ドル/トン等と比較しても引き続いてアジアの中で最も競争力のある価格になっている(P18の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

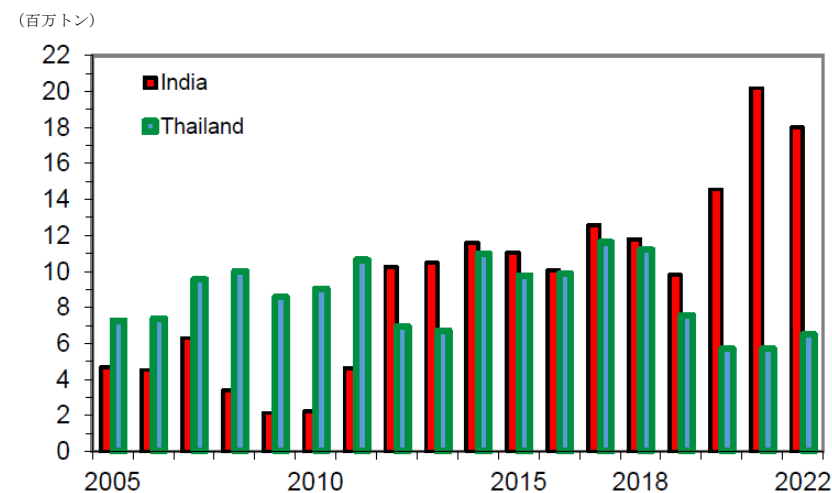
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.3	125.0 (124.5)	-	2.2
消 費 量	102.0	100.0	103.5 (104.0)	-	3.5
輸 出 量	12.5	20.2	19.0 (17.4)	-	▲ 5.8
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	36.0	38.5 (39.2)	-	6.9
期末在庫率	29.6%	30.0%	31.4% (32.2%)	-	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50 (44.50)	-	1.1
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.80)	-	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

図: インドとタイの輸出量の推移(2021年に、インドの輸出量は史上最高、タイの輸出量は1997年以降で最低となる見通し) ※2021年、2022年は予測



資料: USDA「Rice Outlook:December 2021」(2021.12.13)

< 中国 > 中国全土でコメの収穫が終了

【生育・生産動向】中国国家统计局「2021年糧食生産量データ」（2021.12.6）によれば、2021年の生産量はもみベースで212.8百万トンと対前年比0.5%増となっている。

USDAによれば、2021/22年度の生産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、単収が上方修正された一方で収穫面積が下方修正されたことから、前月予測からわずかに下方修正されたものの、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

中国中央气象台（2021.12.3）によれば、二期作早稲、二期作晩稲及び一期作稲はそれぞれ収穫済み。国家糧油情報センター（2021.12.6）によれば、2021年度の晩稲の生産状況は比較的に良好で、播種面積、単収及び生産量の面で増加する見通しであり、品質は全体的に前年を上回り、政府買付基準を満たした粳は9割以上に達する見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量はわずかに下方修正されたものの、対前年度比2.9%増の154.9百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ4.5百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、中国の期末在庫量は世界の約6割を占める見通し。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報10月号」によれば、農家販売価格は、10月、新穀中晩稲の出荷量が持続的に増加し、政府が備蓄している旧穀も引き続き売却されており、市場への供給量は十分であるが、末端需要や在庫消化がそれほど活発でないことで、市場におけるコメ加工業者の買付意欲が高くなく、粳の買付価格は下落した。一方、卸売価格については、国慶節の消費ピークのコメ価格への影響は限られており、低価格米の輸入量は増加傾向を維持していることから、安定しつつも弱含みで推移している。2021年10月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,800元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,140元/トン（前月より0.5%下落）、一期作ジャポニカ米3,920元/トン（前月より1.0%下落）になっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.7	148.3	149.0 (150.4)	▲ 0.0	0.5
消 費 量	145.2	150.6	154.9 (151.5)	▲ 0.0	2.9
輸 出 量	2.6	2.2	2.1 (2.6)	-	▲ 5.4
輸 入 量	2.6	4.5	4.5 (3.7)	-	-
期末在庫量	116.5	116.5	113.0 (109.6)	-	▲ 3.0
期末在庫率	78.8%	76.2%	72.0% (71.1%)	0.0	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92 (30.11)	▲ 0.08	▲ 0.5
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11 (5.00)	0.01	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

写真: 黒龍江省での収穫後の粳の露天保存風景



写真の圃場では、収穫後の粳を露天保存しており、大雪や強風の場合にはビニール等で覆い、湿気と粳の飛び散りを防いでいる。(12月上旬撮影)

< タイ > 洪水の発生により生産量が下方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は、9月から10月にかけて多数の地域で発生した洪水により、開花から成熟期のコメが被害を受け、収穫面積が減少したことで前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比2.3%増の19.3百万トンの見込み。2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比16.1%増の6.5百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.4百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。2020/21年度の輸出量は、イラクや西アフリカ等への輸出が増えたことで0.1百万トン上方修正され、対前年度比1.8%増の5.7百万トンになる見通し。

タイ商務省は、パーツ安となりタイ産米の価格競争力が高まったことで、2021年10月に年間輸出量で最多となったこと、11月1日～22日までの外国貿易局のコメ輸出許可申請が約62万トンとなっていることなどから、年間輸出目標である6.0百万トンを達成出来ると見込んでいる。

タイ米輸出業協会によれば、2021年1月から10月までの輸出量は、前年同期比12.8%減少の459.1万トン。輸出先国は、南アフリカ(64.1万トン)、米国(43.6万トン)、中国(43.0万トン)の順となっている。また、同協会の見方としては、現時点でオミクロン株の流行による注文や輸出への影響は出ていないものの、世界中に拡大し2022年まで継続するようであれば輸出への影響が考えられるため、輸入国における同株の流行状況を注視しているとしている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、12月6日までの週のコメタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、ベトナム産米より安い価格による買い手の引き合いが促されたことで、11月1日までの週より4ドル/トン上昇し395ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

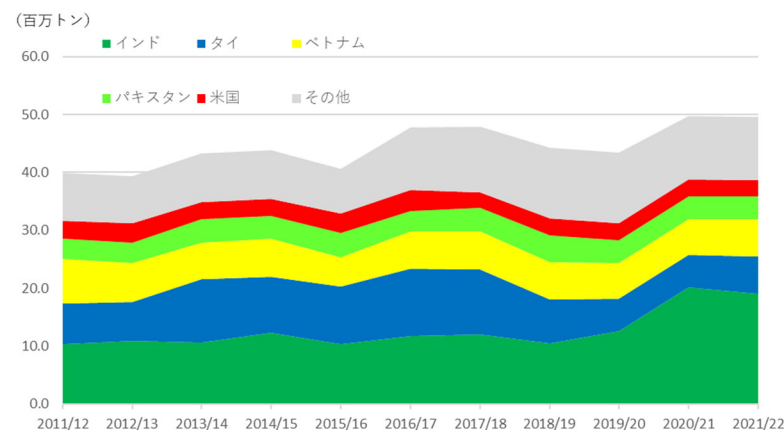
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	17.7	18.9	19.3	(19.5)	▲ 0.2	2.3
消費量	12.3	12.7	13.0	(11.9)	-	2.4
輸出量	5.7	5.7	6.5	(7.7)	-	14.0
輸入量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.6	4.6	(7.2)	▲ 0.3	-
期末在庫率	22.1%	25.2%	23.8%	(36.7%)	▲ 1.5	▲ 1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.40	(10.53)	▲ 0.10	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81	(1.85)	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > インドからの碎米輸入は食品加工用のほか飼料用やビール用

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、農家がコメから野菜や果物、水産物への転換を行ったことで収穫面積が減少したことにより、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、対前年度比 0.8%増の 27.3 百万トンの見込み。2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.9%減の 27.1 百万トンの見込み。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021 年の生産量のうち冬春作は 20.6 百万トンを、夏秋作は 12.8 百万トンを、ムア作(雨季作)は 7.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、0.5%増の 6.2 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.2%増の 6.4 百万トンの見込み。例年、ベトナムは国境を接しているカンボジアから籾米を輸入しているが、2020/21 年度は、飼料用、食品加工及びビール用にインドから大量の碎米を輸入したことから、前年度の 4 倍を超える 1.7 百万トンの輸入量となった。なお、この傾向は次年度に継続すると見られておらず、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 69.7%減の 0.5 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月から 11 月の間のコメの輸出量は 574.8 万トンとなっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の 12 月 7 日までの週の価格は、11 月に最大の輸出先であるフィリピンが検疫許可を停止したことにより 11 月 2 日までの週より 25 ドル/トン下落し 410 ドル/トンとなっている。ベトナム産米の価格は、同じグレードや品質の競合するアジア諸国のコメの中で最も高くなっている。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の 2021 年 1 月～10 月の輸出量は、対前年同期比 39.1%減の 12.8 万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.3	27.1 (28.3)	-	▲ 0.9
消費量	21.3	21.5	21.4 (23.1)	-	▲ 0.5
輸出量	6.2	6.2	6.4 (6.4)	-	3.2
輸入量	0.4	1.7	0.5 (1.0)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.2	2.5	2.4 (3.1)	▲ 0.0	▲ 6.0
期末在庫率	4.3%	9.1%	8.5% (10.4%)	▲ 0.2	▲ 0.6

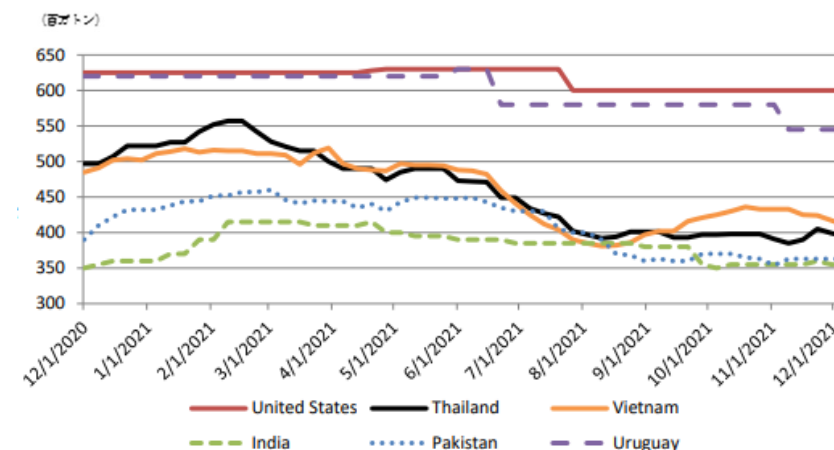
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.33	7.35 (7.45)	-	0.3
単収(もみt/ha)	5.88	5.97	5.90 (3.80)	-	▲ 1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移(ベトナム産の価格競争力が上昇)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.12.9)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、パラグアイで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

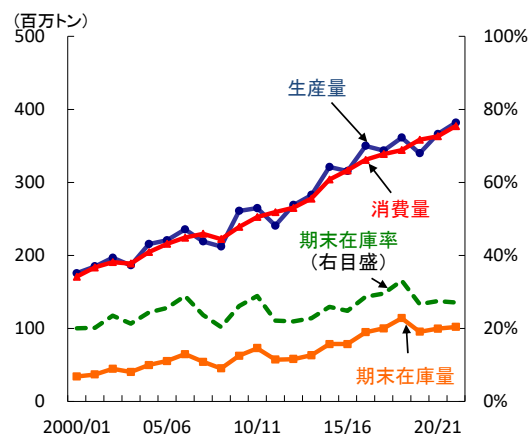
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パラグアイで下方修正も、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021.12.9）をもとに農林水産省で作成

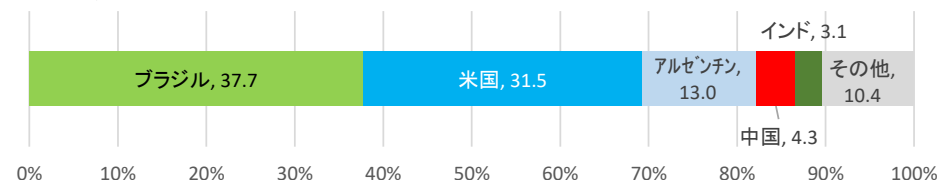
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

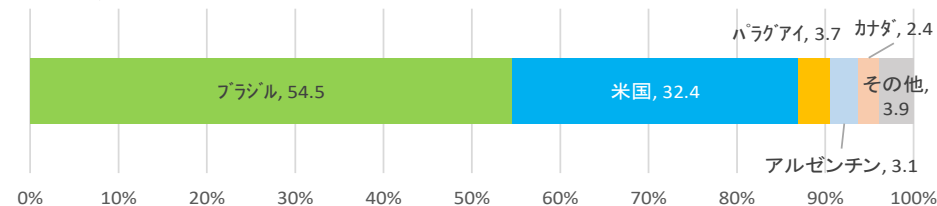
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	381.8	▲ 2.2	4.2
消費量	358.4	363.0	377.0	▲ 1.0	3.9
うち搾油用	312.4	315.8	327.8	▲ 1.1	3.8
輸出量	165.1	164.8	172.3	0.3	4.6
輸入量	165.0	165.8	169.8	-	2.4
期末在庫量	95.5	99.8	102.0	▲ 1.8	2.2
期末在庫率	26.7%	27.5%	27.1%	▲ 0.4	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 December 2021）

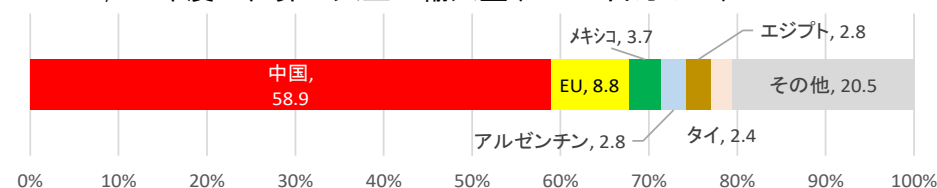
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (381.8 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.3 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (169.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 生産量は史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測から変更はなく、前年度より4.9%増の120.4百万トンと2018/19年度に次ぐ史上第2位の見込み。

11月末時点で、収穫は例年並みのペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、前月予測から変更はなく、前年度より3.0%増の62.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.5%減の55.8百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～12月2日)は、43.8百万トンであり、内訳は中国(23.5百万トン)、メキシコ(4.2百万トン)、エジプト(2.3百万トン)、日本(1.8百万トン)、インドネシア(1.7百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度より32.7%増の9.3百万トンの見込み。期末在庫率は7.8%で依然として低水準の見込み。

写真：中西部イリノイ州の大豆の収穫風景

(11月12日撮影)

収穫したばかりの大豆をトレーラーに積み込んでいる。



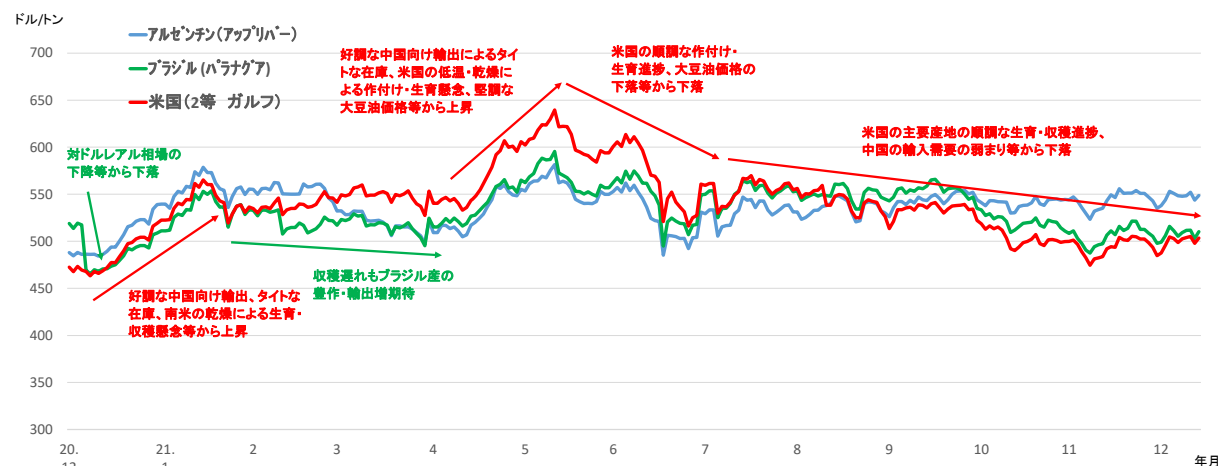
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	96.7	114.8	120.4	－	4.9
消 費 量	61.9	60.9	62.8	－	3.0
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	－	2.3
輸 出 量	45.7	61.7	55.8	－	▲ 9.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	－	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	9.3	－	32.7
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.8%	－	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.98	－	4.6
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.44	－	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 収穫面積増で生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.3%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.12.9)によれば、2021/22年度の実生産量は、前年度より4.0%増の142.8百万トンで史上最高の見込み。

12月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足により作柄への影響が懸念されている。最大生産州である中西部マト・グロッソ州の作付は終了し、生育は順調。南部のパラナ州では生殖生長から充実段階が12月6日現在44%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より15.1%増の94.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年11月の輸出量は2.6百万トンで、前年同月(1.4百万トン)に比べ1.8倍。2021年1～11月の輸出量は83.4百万トンで、前年同期(82.7百万トン)に比べ0.8%増となっている。内訳は、1位が中国で58.4百万トン、2位がスペインで3.6百万トン、3位がオランダで2.8百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												作付 4.5(百万ha)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 20.9百万ha												作付 16.4(百万ha)								
大豆	マト・グロッソ州、パラナ州等												作付 40.4(百万ha)								
													収穫 29.1(百万t)								
													収穫 88.1(百万t)								
													大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								
													収穫 142.8(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2021.12.9)

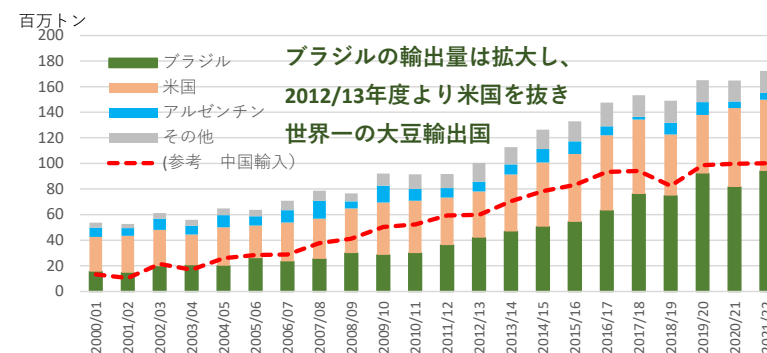
大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	138.0	144.0 (143.0)	-	4.3	
消 費 量	49.4	49.4	50.4 (48.6)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.0)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	81.7	94.0 (92.2)	-	15.1	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 36.3	
期末在庫量	20.0	28.0	28.3 (8.4)	-	1.1	
期末在庫率	14.1%	21.3%	19.6% (6.0%)	-	▲ 1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.40 (40.50)	-	3.9	
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.53)	-	0.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 単収増で増産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更はなく、単収の増加から前年度より 7.1%増の 49.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.12.16）によれば、最近の降雨が作付けを遅らせたものの、北部の土壌水分は改善した。作付進捗率は 65%で、過去 5 年平均より 7 ポイント遅れている。なお、ラニーニャ現象の発生に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.2%増の 49.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 3.1%増の 5.4 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～10 月の輸出量は 5.3 百万トンで、前年同期（6.8 百万トン）より 21.2%減。内訳は、1 位が中国 344 万トン、2 位がエジプト 60 万トンとなっている。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第 1 位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021 年 1 月以降、輸出税を大豆 33%、大豆粕及び大豆油 31%に設定し、現在も継続中。

大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.8	46.2	49.5 (47.0)	－	7.1
消 費 量	45.9	47.4	49.4 (47.8)	－	4.2
うち搾油用	38.8	40.2	42.0 (41.5)	－	4.6
輸 出 量	10.0	5.2	5.4 (5.7)	－	3.1
輸 入 量	4.9	4.8	4.8 (4.8)	－	▲ 0.4
期末在庫量	26.7	25.1	24.6 (4.2)	－	▲ 1.8
期末在庫率	47.7%	47.6%	44.9% (7.9%)	－	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.40 (16.40)	－	▲ 0.4
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.87)	－	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

写真：北部サンタフェ州の大豆の生育風景

(12 月 4 日撮影)

10 月下旬に作付け。生育は極めて良好。

収穫は 2022 年 3 月下旬の予定。



< 中国 > 収穫面積・単収下方修正で減産見通し、輸入量は史上最高の1億トン

【生産・生育状況】中国国家统计局「2021 年糧食生産量データ」(2021.12.6)によれば、2021 年の生産量は前年度より 16.4%減の 16.4 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、収益性の高いとうもろこし等に作付けがシフトしたことにより、主に収穫面積が下方修正されたことから前月予測から 2.6 百万トン下方修正され、前年度より 16.3%減の 16.4 百万トンの見込み。

11 月上旬時点で、収穫はすでに終了。

【需給動向】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、搾油マージンの低下、搾油ペースの減速に伴い、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、依然として旺盛な搾油用需要から前年度より 4.6%増の 116.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度より 0.2%増の 100.0 百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021 年 1～10 月の輸入量は 79.1 百万トンと、前年同期比で 5.0%減。内訳は、ブラジル産 52.3 百万トン (66%)、米国産 22.6 百万トン (29%)。なお、10 月の輸入量は 5.1 百万トンで、前年同月 (8.7 百万トン) より 41.2%減。ブラジル産が 3.3 百万トンと 65%を占めた。今後は、米国の収穫に伴い、11 月以降輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、10 月の国内価格(山東省の国産大豆工場渡し価格)は、新穀大豆の収穫が終盤に入り、10 月初旬から中旬にかけて新穀大豆が集中して出荷されたが、本年度の実産量の減少、作付けコストの上昇、農家の売り惜しみ等の影響で、前月 (6,100 元/トン) から上昇し、6,140 元/トンで高水準である。農家は今後の価格上昇を見込んで販売に消極的で、今後、国内大豆価格は高止まりするとされている。一方、10 月の国際価格(山東省の輸入大豆価格)は 4,540 元/トンと前月 (4,600 元/トン) から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	16.4 (18.7)	▲ 2.6	▲ 16.3
消 費 量	109.2	111.6	116.7 (118.0)	▲ 1.0	4.6
うち搾油用	91.5	93.0	97.0 (99.0)	▲ 1.0	4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	100.0 (98.5)	—	0.2
期末在庫量	26.8	34.5	34.1 (30.8)	▲ 1.6	▲ 1.2
期末在庫率	24.5%	30.9%	29.2% (26.1%)	▲ 1.1	▲ 1.7

(参考)

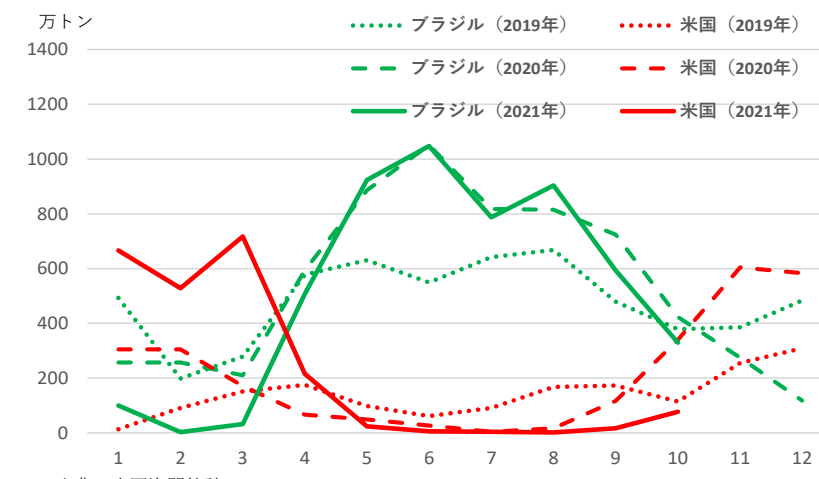
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40 (9.35)	▲ 1.20	▲ 15.0
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95 (1.99)	▲ 0.03	▲ 1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典: 中国海関統計

注: 2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 収穫面積・単収上方修正も、西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、以下のカナダ統計局データを反映し、収穫面積及び単収が上方修正され、前月予測から0.4百万トン上方修正されたものの、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。11月末時点で、収穫は終了している。

なお、カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2021」(2021.12.3)、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.12.17)によれば、収穫面積は前年度より4.8%増の一方、単収は東部カナダの主産州オンタリオ州では前年度を上回るものの、西部カナダの生育期間中の乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より4.2%減の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出力は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より7.6%減の4.2百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～10月の輸出力は87.5万トンで、国別では、オランダ(16.1万トン)、イタリア(12.7万トン)、バングラデシュ(9.0万トン)、アルジェリア(8.0万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.3	(6.3)	0.4	▲ 1.4
消 費 量	2.6	2.7	2.5	(2.3)	0.2	▲ 4.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.8	(1.8)	0.1	6.6
輸 出 量	3.9	4.5	4.2	(4.2)	0.2	▲ 7.6
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.3	0.3	(0.5)	▲ 0.2	8.2
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7%	(6.9%)	▲ 2.8	0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13	(2.14)	0.03	4.4
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94	(2.93)	0.13	▲ 5.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(17 December 2021)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)